



達成率70%目前 着々と進む

建物の保存修理事業

今井町並保存整備事務所を訪れて、重要伝統的建造物群保存地区（以下重伝建）内の建物の保存修理事業や、新築建物の修景事業の進み具合について取材しました。

檀原市は、市独自で昭和58年度に「今井町町並み保存対策補助金制度」を創設し、昭和59年度から積極的に古民家の保存修理事業に取り組みました。

この補助金制度は、建造物を保存修理するためにかかる費用の一部を補助するためのものです。伝統的建造物は、当然のことながら外観にも木製の建具や連子格子、焼杉の板壁、木堀などが使用されています。現在の住宅にこれらが使用されないのは、近年高機能で安価なアルミや樹脂などの素材が普及してきたからです。これ以外にも外壁の土壁や屋根（日本瓦）など、町並みを守るためには安価とはいえない

材料や工法でなければ保存修理はできません。それによって増加する費用の一部を補填するのが補助金制度です。

補助金を活用した修理保存事業が進む一方、町内では重伝建選定の受託可否についてさまざまな動きを経て、平成5年に文化庁による重伝建の選定を受けました。その後は国、県の補助も加わり、保存修理事業は一気に加速しました。特に平成6年度からの7年間は毎年平均で約20件の伝統的建造物の保存修理が実施されました。

重伝建地区内には現在約760件の建物がありますが、伝統的建造物に特定された建物には特定番号が付与され、現在501件が特定されています。特定物件外の建物や新築の建物は、修景事業が適用されます。

事業が始まってから、39年を経て、保存修理の対象となる特定物件501件のうち、349件の保存修理事業が完了しました。これは実に70%目前の達成率です。

この達成率の実現に大きく寄与した事業があります。それは、平成元年建設省の「歴史的地区環境整備街路（歴みち）事業」です。この歴みち事業によって環濠内の全ての街路の側溝が整備されて、町の街路は見ちがえるように美しく整然とした姿に変貌しました。

歴みち事業と保存修理事業は、地区内

住民に今井町の歴史的文化的文化財としての価値を目に見える形で示すことになりました。住民は今井町のすばらしさを改めて認識することになり、今井町に一層誇りと愛情を抱くようになったといっても過言ではありません。

昨年度（令和3年度）は事業件数は9件で、うち伝統的建造物の保存修理事業件数（小修理含む）は6件です。保存修理の詳しい状況について施主さんと保存整備所に取材させていただき、次号以降に一件づつ掲載する予定です。

◆令和3年度 修理保存・修景事業の一覧表

施設名	丁目	事業内容	活用方法
1 S家住宅	4	2戸1長屋（1戸分）の空き家の修理事業	住宅
2 H家住宅	4	1戸建て空き家の修理事業	住宅
3 洲脇家住宅	1	土蔵の修理事業	作業場
4 田中家住宅	2	1戸建て空き家の修理事業	事務所
5 M家住宅	1	1戸建て住宅（一部店舗）の新築修景事業	店舗兼住宅
6 K家住宅	4	1戸建て住宅の新築事業	住宅
7 紙半豊田家	3	塀の修景事業	-
8 鶴田家住宅	1	樋の小修理事業	-
9 若林家住宅	1	外観の小修理事業	-

※ ローマ字表記は、3月23日時点で掲載の同意が得られなかった為。

## 今井町の商い

若林 稔

重要伝統的建造物群保存地区今井町を我々が語るとき、称念寺を核とした寺内町と、織田信長との戦い後の商人の町の2つの顔を中心に行っているが、明治以降のことを語ることはほとんどない。

そして重伝建保存地区制定をしてからも、建築物などの保存に重点を置かれて経済の在り方にまで進むことがなく、同時に近郊に大型スーパーの進出で、一部の老舗を残して通常の店舗は殆んど見かけなくなつてしまった。

今井町は、戦国時代末期に寺内町としての誕生から江戸時代を通して中和地域の中核的な商人の町として発展停滞を繰返して幕末を迎え、明治維新で大名への貸し倒れなどの大打撃を受けて町が衰退していく過程は今井町史に書かれているし、内外の多くの方が発表しているので知ることが多い。

町並みは立派になつたが、それまでに沢山あった商店はすっかりなくなり、住宅地の様相を呈してきたのが今井町だというのが当たり前になつてきている。

それでも一般的には、町中に観光に来るお客様のための店の並ぶ町だと誤解されていることを実感する。

そして、全国的に古い町並みを利用して観光客を呼び込む政策が町の復興につな

がると信じ込み、日本全土のどこもかしこも観光客の数を競う風潮が広まり、檀原市でも数に頼る観光を持ち込むことで再興した町並みを活かすことが最善であるという考えが広がり始め、観光客を迎える店は増えてきたが、私はそれは違うと言いつつ続けてきた。

日本中がそうであるように、現在、コロナ禍が全世界を席捲し、観光産業をズタズタにしたにもかかわらず、再興は観光振興しかないと思わせ、人を感化させてしまった。

今井町はというと、住民が静かな佇まいを条件に重伝建保存地区の認定を採択したお陰で、過度の観光ブームに至らずに来て、コロナで大変ではあるが観光で倒産までには至らず、比較的穏やかに過ごせていることは「悪条件の時代に強い町」を作ってくれた先人たちの商いの知恵が底辺にあるのだなと感謝しています。

今回は明治期に衰退したその後の今井町の商いとは？という視点で今井町を振り返ってみたいなと思ひ、「今井町の商い」というテーマでこれから数回に分けて商業を中心に連載していきます。

まず、次号第1回目は私が見てきた小学生の頃の学校からの帰り道にあった商店から記憶をたどっていきます。昭和20年代の話です。お店の多さにきつとびっくりですよ！

## 岩井 芳春氏を偲んで

若林 稔



当会常任理事岩井芳春氏(81歳)が2月27日、逝去されました。

だんじりが

大好きで、祭りとお酒が大好きだった彼は着物も大好きで、茶行列の第1回目から毎回自前の着物を着て行列の先頭に立つて町中を練り歩いてくれました。準備の段階でも灯火会、保存会行事の前の町中の草刈りには彼はいつも私のそばで黙々と手伝ってくれていました。

コロナ禍でイベントの中止が続いていますが、「また茶行列が始まるよ」と言えるようになったら、着物姿でさっそうと出てくるような感じを抱いて彼を見送ってきました。ご冥福をお祈りいたします。

## テレビ放映

BS日テレで水曜日の夜8時から放映されている「三宅裕司のふるさと探訪」の撮影が今井町で先日実施。重文の高木家などが紹介される予定です。

放送日は4月の水曜日予定としかわかりませんが、詳しくは番組ホームページ <https://www.bs4.jp/hurusato/> まで。